
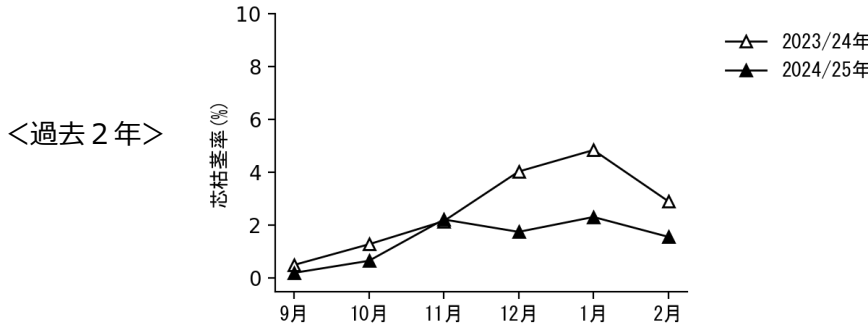
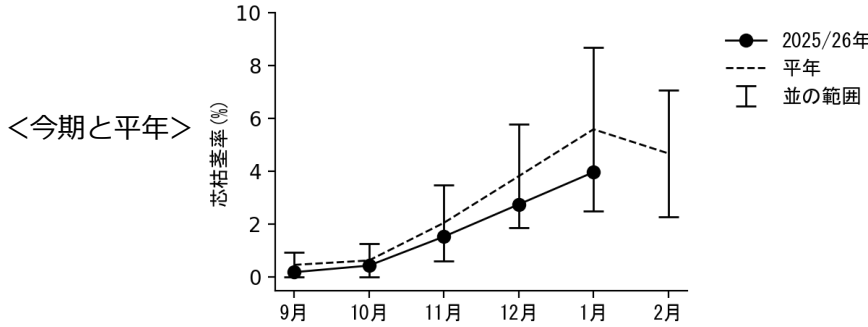


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）			イネヨトウ カンシャシンクイハマキ
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	↘		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果


芯枯茎率の推移（夏植え）



- ・発生種：イネヨトウ（61%）、カンシャシンクイハマキ（39%）
- ・発生ほ場率87.5%（平年：92.6%）
- ・南大東島：多発生（病害虫防除員報告）

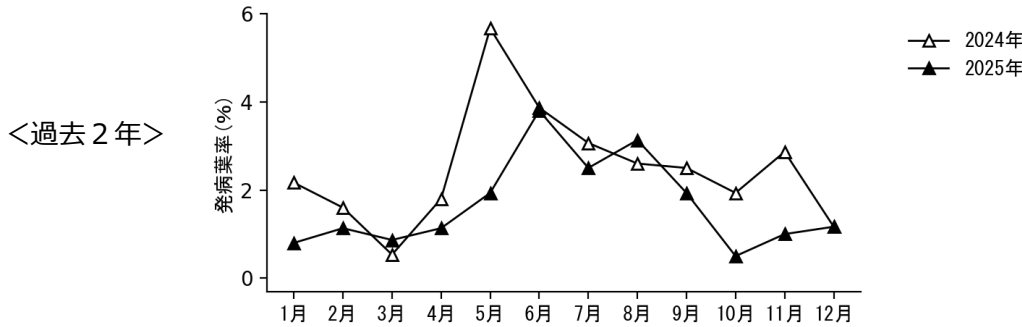
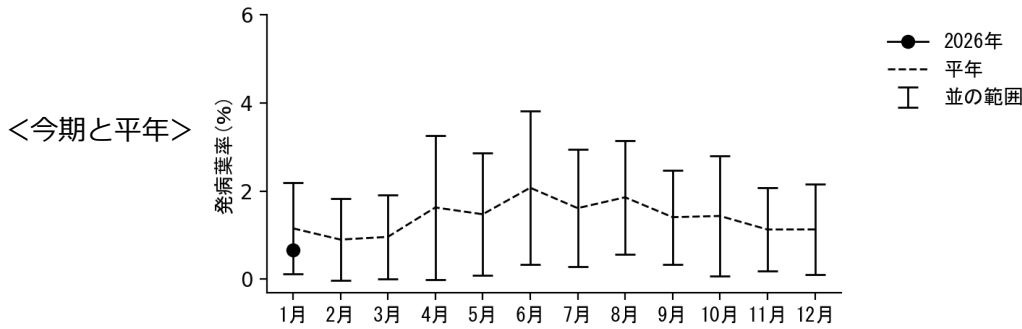
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	↘		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.1（平年0.3）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：54.2%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

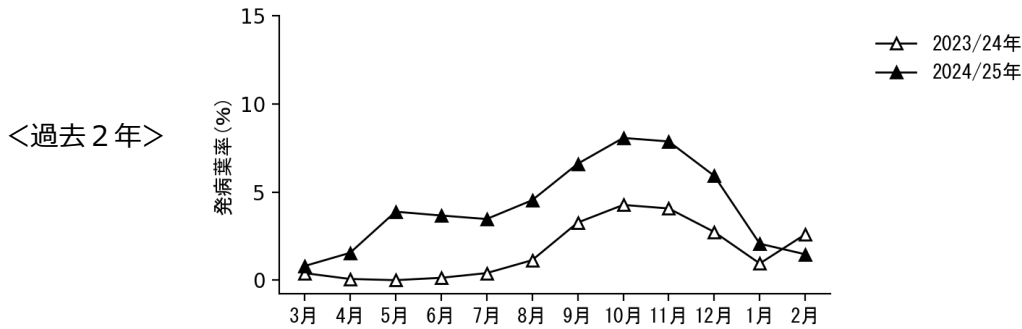
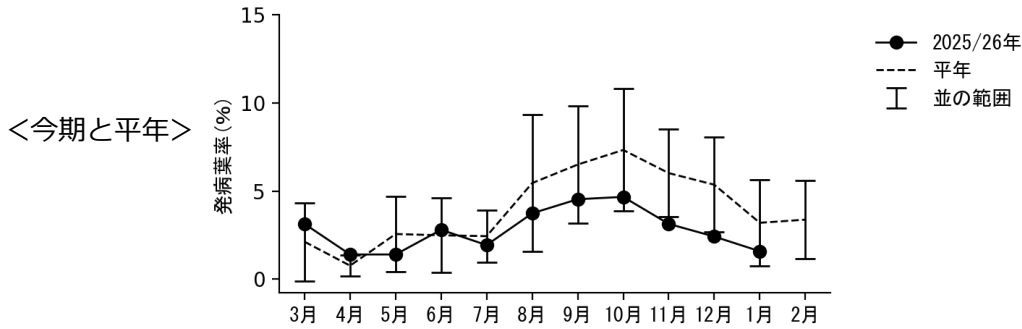
被害果→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.3（平年0.8）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：74.5%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

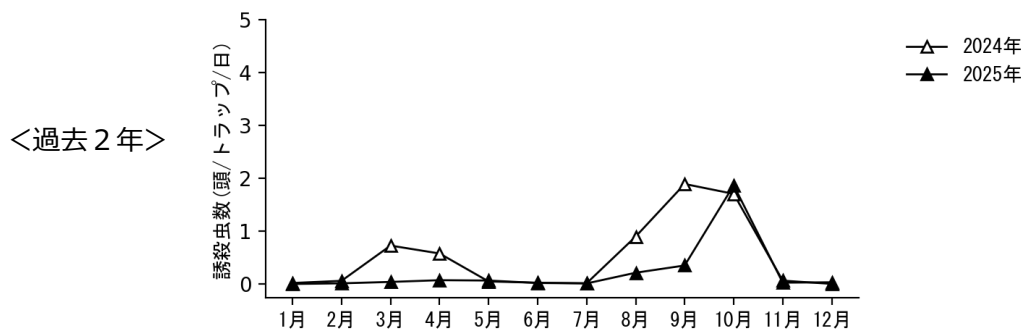
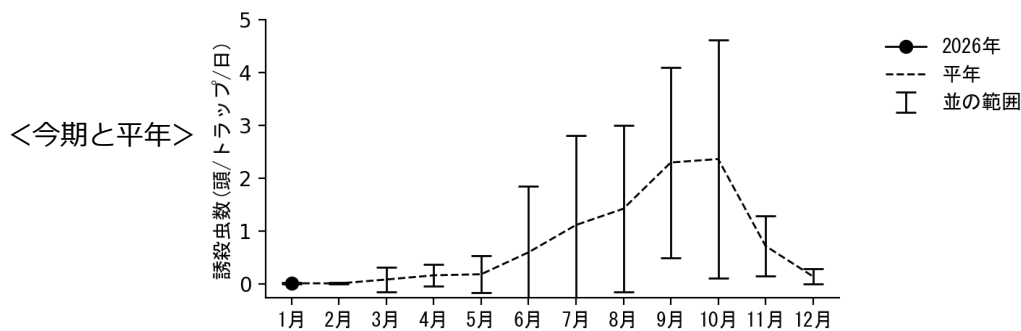
被害葉→



作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率50.0%（平年：72.5%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



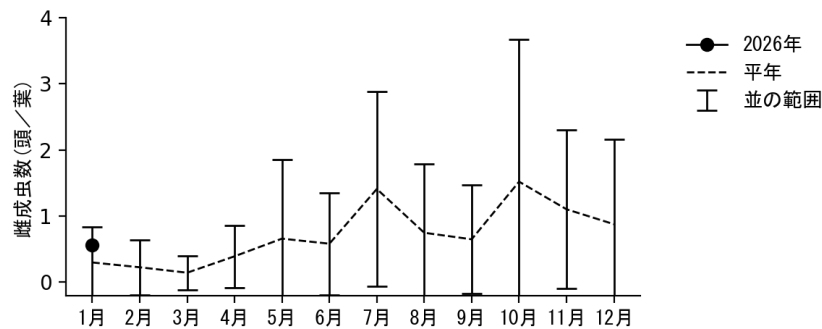
ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

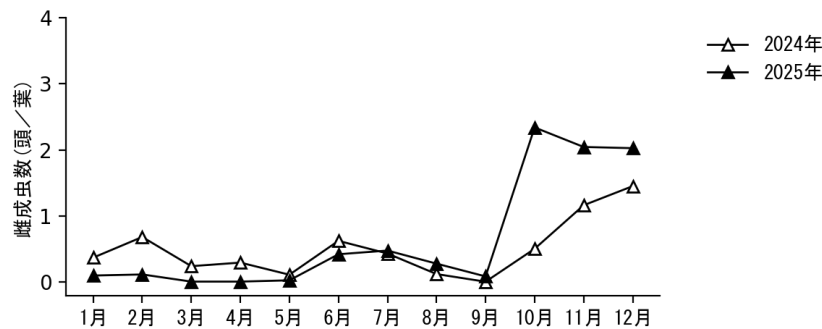
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率33.3%（平年：27.6%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ